

大正初期の奈良市役所

写真：奈良名勝写真帳より

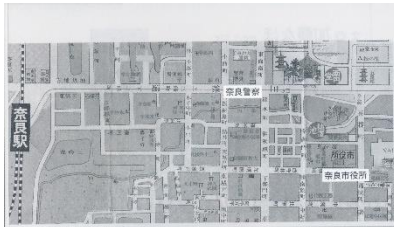
奈良今昔写真 WEB 蔵



月刊大和路 ならら 2018. 8 月号 当館資料 ID311293837

続続・大学的奈良ガイド 志賀直哉『犬』 炎天下、奈良の町で飼い犬を探す 講師：吉川仁子

奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所、なら学研究センター、文学部なら学プロダクト PRESENTS



ここに志賀直哉と米の写りが掲載されています。

月刊大和路 ならら 2018.8月号 35頁をご覧ください。当館ふるさとコーナーで蔵書しています。当館資料 ID311293837

昭和初期の奈良を伝える 銅い犬失踪事件顛末 銅い犬の米があるなくなつた事は私を不機嫌にした。然しそのため神様を可成りたす事はもう願はず。...

このように書き出される志賀直哉「犬」(週刊朝日)昭和3年1月2日号。執筆は昭和2年9月。は、炎天下、奈良の町を志賀と重ねられる主人公「私」が飼い犬を探し回る話である。志賀は、自作解説「続創作余談」の中で、当時本に住んでいた谷崎潤一郎を訪ね、二階に神戸に出て、其所で買つて帰つた犬が、「成時」なくなくて、それを尋ね出した事をそのまま書いて...

文章の心映した動物たち 思いがけぬ後日談 志賀の作品には動物がよく登場するが、彼は実際の動物好きで、様々な動物を飼っていた。変わったところでは、熊の仔、小猿なども飼っていたという(「結婚」序)。犬はしばしば作品に登場するが、中には「雪の通り」(昭和4年)の小犬のように、主人にひとくち当たられる犬もいる。...

奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 なら学研究センター 文学部なら学プロダクト PRESENTS 続・大学的 奈良ガイド 第46講 志賀直哉『犬』 炎天下、奈良の町で飼い犬を探す 講師 吉川仁子 奈良女子大学文学部准教授

動物に接すると、人は自分の心を無防備にさらけ出す。昭和のはじめの奈良の空気に、作家・志賀直哉の筆が人柄を伝える。銅い犬「米」を巡る話。 吉川仁子 奈良女子大学文学部准教授